

2023年度 体験活動プログラム 活動報告

体験型活動ワーキンググループ

2024年3月31日

目次

I	体験活動プログラム実施概要	1
II	体験活動プログラム活動報告	4
III	体験活動プログラム活動報告会	33
IV	付録	
	・体験活動プログラム概略	37

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部学生及び大学院学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

2012年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、2012年度には176名が活動に参加、さらに2013年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学生を様々な体験の場に送り出しています。

●2023年度体験活動プログラム実施データ

〈プログラムの件数および募集人数〉

○ 提供プログラム数：83件、活動実施プログラム数：80件、募集人数：591名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	56件 (67%)	54件 (68%)	373名 (63%)
海外プログラム	18件 (22%)	18件 (22%)	165名 (28%)
研究室プログラム	9件 (11%)	8件 (10%)	53名 (9%)
全プログラム	83件 (100%)	80件 (100%)	591名 (100%)

〈応募、参加状況〉

- 全プログラムでの募集人数591人に対し、応募者数は797名 (135%：募集人数比)、応募者のうち、参加者数は488名 (61%：出願者数比)。
- 国内プログラムは募集人数373名に対し、応募者数は452名 (121%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は300名 (66%：出願者数比)。
- 海外プログラムは募集人数165名に対し、応募者数は295名 (179%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は154名 (52%：出願者数比)。
- 研究室プログラムは募集人数53名に対し、応募者数は50名 (94%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は34名 (68%：出願者数比)。

区分	募集人数	応募者	参加者	不採択者
国内プログラム	373名	452名 〈121%〉	300名 《66%》	152名 《34%》
海外プログラム	165名	295名 〈179%〉	154名 《52%》	141名 《48%》
研究室プログラム	53名	50名 〈94%〉	34名 《66%》	16名 《34%》
全プログラム	591名	797名 〈135%〉	488名 《61%》	309名 《39%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は応募者数との比率

なお、プログラムに応募し、不採択となった者が別のプログラムに応募しているため、応募者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、応募者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

〈採択者の属性〉

◆男女別内訳

- 参加者488名の男女別内訳は、男子学生が232名（48%）、女子学生が256名（52%）。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	232名 (48%)	256名 (52%)	488名 (100%)

◆学年別内訳

- 参加者488名のうち、学部前期課程学生は207名（42%）、学部後期課程学生は176名（36%）、大学院学生105名（22%）。
- 参加者488名の学年別内訳は、1年生87名（18%）、2年生120名（25%）、3年生82名（17%）、4年生93名（19%）、5年生0名（0%）、6年生1名（0%）、修士1年生31名（6%）、修士2年生38名（8%）、博士1年生12名（3%）、博士2年生2名（0%）、博士3年生6名（1%）、専門職学位1年生6名（1%）、専門職学位2年生5名（1%）、専門職学位3年生5名（1%）。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	男子	女子
法			9	23			32	20	12
医			6	2			8	4	4
工			11	23			34	23	11
文			5	9			14	7	7
理			8	3			11	6	5
農			15	5		1	21	9	12
経済			10	17			27	20	7
教養	87	120	10	9			226	97	129
教育			6	2			8		8
薬			2				2		2
計	87	120	82	93	0	1	383	186	197

教養学部欄の「1年」、「2年」の欄は、前期課程の学生を示す。

	修士 1年	修士 2年	博士 1年	博士 2年	博士 3年	専門職 学位1年	専門職 学位2年	専門職 学位3年	計	男子	女子
工学系	7	8	3		2				20	10	10
人文社会	1	4	3						8	4	4
教育学	4	3			1				8	3	5
法学政治				1			1	5	7	2	5
経済学	2								2	1	1
総合文化	4	4	1						9	5	4
理学系		2			2				4	1	3
農学生命	4	6	1						11	3	8
医学系	3	1	3		1	2			10	2	8
薬学系		1							1	1	
数理科学											
新領域	1	3	1	1					6	3	3
情報理工	1	3							4	4	
情報学環	4	3							7	2	5
公共政策						4	4		8	5	3
計	31	38	12	2	6	6	5	5	105	46	59

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	12	13	17	18	24	3	87
(国内)	6	10	11	6	17	2	52
(海外)	5	3	4	6	2		20
(研究室)	1		2	6	5	1	15
2年	29	14	30	19	23	5	120
(国内)	17	10	21	11	13	3	75
(海外)	11	4	8	6	7	1	37
(研究室)	1		1	2	3	1	8
計	41	27	47	37	47	8	207

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム

ページ数

A1	療育を知ろう	6
A3	東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのボランティア活動	6
A4	TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	6
A5	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	7
A6	高校魅力化プロジェクト～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決、価値創造～	7
A7	工学系日本語教室でのボランティア	7
A8	自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～	8
A9	増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験	8
A10	未来へつなぐ震災伝承	8
A11	長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業	9
A12	フル・インクルーシブ教育を実践する公立小学校でのゲスト・ティーチャー体験	9
A13	未来を指向する地方自治体の活動への参加	9
A14	気候変動に対応するために個人でできるGXを考えてみよう～日本マイクロソフト株式会社～	10
A15	学術出版の体験的学習	10
A16	町長の秘書業務体験！—現役首長の日々業務に同行し行政現場に向き合う—第2弾	10
A18	JICAの国内の現場で国際協力を知る	11
A19	誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～	11
A20	「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～	11
A21	農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	12
A22	再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	12
A23	東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう	12
A24	笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 「お笑いファン」向けデジタル・マーケティング	13
A25	笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 芸人×東大生 特別授業	13
A26	笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 「漫才ワークショップ」	13
A27	笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 東大×吉本 同期ライブ「笑いの傾向と対策 令和5年度版」	14
A28	おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）	14
A29	岩手県花巻市大迫ぶどう色の4日間 2023夏	14
A30	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	15
A31	持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための科学的アプローチに基づくフィールド実践体験	15
A32	駒場IIキャンパス学食を通じた生産者への聞き取り・発信ワークショップ	15
A33	ラムサール条約湿地「穴道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える	16
A34	森の人になろう—森と暮らす仕事	16
A35	森が社会に貢献する—持続可能な森づくりへの挑戦—	16
A36	伊豆の体験活動—南伊豆という—地域との連携に学ぶ—	17
A37	北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	17
A38	保育・幼児教育に関する渋谷区の取り組み（渋谷プロジェクト）を知ろう	17
A39	「東大の森」の教育研究を支えよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	18
A40	中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	18
A41	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～	18
A42	日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える	19
A43	中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	19
A44	「クリケット」を通じて世界を知ろう！～クリケットを通じた国際交流～	19
A45	不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形	20
A46	陶板複製名画美術館における学芸員体験	20
A47	聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える	20
A48	山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう	21
A49	どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）	21
A50	暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える～京都府亀岡市～	21
A51	地域住民の健康を守るために医療機関が行う地域活動体験プログラム	22
A52	まちを変える、まちが変わる～(株)豊島区 体験入門～	22
A53	野宿学（雪国編）「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」	22
A54	帰還困難区域の「街づくり」を考える。—復興に対する多様な「想い」に触れながら—	23
A55	DBJとともにあなたのアイデアをビジネスにつなげよう～女性起業家を招いて～	23
A56	高知県高知市を舞台とした地域価値向上のための企画コンサルティング活動	23

海外プログラム

ページ数

B1	中国訪問+キャンパスツアーと学生交流	24
B2	大学・企業・文化体験 in 韓国2023年—韓国を知る、韓国から日本を見る—	24
B3	シンガポールでビジネスを学んでみよう	24
B4	TOPS2023 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2023)	25
B5	英国ロンドン、海外で働くとは	25
B6	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	25
B7	アラブ首長国連邦の「いま」	26
B8	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	26
B9	アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	26
B10	ニューヨークでキャリアを切り開く生き方	27
B11	Sustainable agriculture experience at Organic Farm (USA)	27
B12	ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験 (米国)	27
B13	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験	28
B14	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！～ハノイの学生・企業等との交流 (訪問先はオーダーメイドで調整可能)～	28
B15	インドに向けて東大・日本の魅力を発信—日本留学推進活動	28
B16	台湾大学実験林での体験活動～亜熱帯の森林と林業を学ぶ～	29
B17	中国・海南島の自然保護区管理を知る	29
B18	インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動日本語教育のサポートと企業訪問をとおして	29

研究室プログラム

ページ数

C1	「医の知」に触れる—手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！	30
C2	先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体	30
C3	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	30
C5	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	31
C6	みんなで翻刻ソン	31
C7	DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2023	31
C8	システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン	32
C9	いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう	32

【国内プログラム】

A1. 療育を知ろう

島田療育センターはちおうじにて、重症心身障害者の通所、リハビリテーション、診療を見学した。通所では活動参加や摂食介助の様子や施設内を見学し、リハビリテーションでは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリに同席した。診療では療育診療や整形外科に同行した。また、副所長や医療的ケア児コーディネーターのレクチャーやカンファレンスにも参加した。この経験から、療育の実態を学ぶと同時に、医療と福祉の連携の重要性も理解できた。特に関心を持っている強度行動障害の医療や福祉についても理解を深められ、今後の研究活動の深化と発展に繋げることができると強く感じ、関連学会に参加する意欲が湧いた。



島田療育センターはちおうじ

日程：2023/8/29(火)-9/8(金)

参加学生：1名

活動場所：島田療育センターはちおうじ

備考：島田療育センターはちおうじ：<https://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8/>

A3. 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのボランティア活動

ドナルド・マクドナルド・ハウスの東大ハウスでボランティア活動を体験した。主にゴミ回収や備品の洗濯、チャリティラッフルの景品詰め作業を行った。また、地域イベントでの広報活動や著名人の訪問の様子なども見学した。この経験を通じて、医療と社会の連携の重要性を理解し、医療が社会全体で支えられていることを実感した。特に市民の健康を向上させる社会的アプローチに興味を持ち、将来の進路として官僚や団体職員として働く可能性も考えるようになった。ボランティア活動のやりがいや充実感を知り、今後も積極的に参加したいと感じている。



ドナルド・マクドナルド・ハウス
東大ハウス

日程：2023/7/1(土)-2024/1/31(水)

参加学生：5名

活動場所：東京大学医学部附属病院隣接の東大ハウス

備考：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン：<http://www.dmhj.or.jp>



ブルーナさんご支援の
ミッフィーたち

A4. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

TSCP学生委員会の後継組織であるGXSN（東京大学GX学生ネットワーク）に所属し、キャンパスでの二酸化炭素排出量削減のプロジェクトに参加した。具体的には、ミーティングに出席し、4月末に予定されているsustainability weekでの生協食堂とのコラボメニュー提供の企画と広報を担当した。熱意を持つ仲間とともに持続可能性について考え、行動できたことが非常に良かった。今後もGXSNに所属し続け、学生として持続可能性に貢献するためにできることを積極的に行いたいと考えている。

日程：2023/7月-2024/2月

参加学生：1名

活動場所：東京大学本部棟9階施設部

備考：TSCP（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト）：<http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>
TSCP学生委員会（UTokyo Sustainability）：<https://utsustainability.wixsite.com/2021>
TSCP学生委員会（UTokyo Sustainability）Facebook：<https://www.facebook.com/tscpgakusei/>

A5. 環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト

熱海の防波堤で海水を採取し、環境DNAを調査するプロジェクトに参加した。海水の採取、濾過、カートリッジの研究所への送付を担当し、正しい手順で作業を行った。環境DNAを用いて海域に生息する魚類の種類を特定する技術に驚き、その手軽さと学術的な意義を感じた。フィールドでの実験は、他の生物のDNAが混ざることや風、波などの影響を受けるため難しかったが、貴重な経験となった。フィールドワーク型の研究とラボでの分子生物学の研究の両方に興味を持ち、将来の選択肢が広がった。この経験を通じて、今後も広い視野を持って勉学に励んでいきたいと考えている。



サンプル採取の海

日程：2023/8/2(水)-8/3(木)、8/15(火)

参加学生：4名

活動場所：日本全国の海岸

備考：アースウォッチ・ジャパン：<https://www.earthwatch.jp/?product=環境dna>

<https://www.earthwatch.jp/>

調査プログラム解説書：https://www.earthwatch.jp/doc/briefings/briefing_edna_web2022.pdf

A6. 高校魅力化プロジェクト

～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決、価値創造～

隠岐国学習センター（隠岐島前高校と連携した公立の学習塾）のインターンスタッフとして、事務作業、生徒への学習指導、高校3年生の受験指導、イベント運営を行った。特に試験期間中は、生徒の学習状況を把握し、勉強のサポートや相談に対応した。センターは「公立塾」として、生徒一人ひとりに寄り添う居場所であり、「教える」という行為を超えた学びの可能性を感じた。この経験を通して、子どもたちにとって勉強だけにとどまらない貴重な価値を持つ空間であることを理解し、今後も生徒の興味関心に寄り添う姿勢を大切にしていきたいと思っている。



高校に併設されている塾にて

日程：2023/8/1(火)-9/30(土)

参加学生：4名

活動場所：北海道：大空町、奈井江町、白糠町、むかわ町、厚真町／新潟県：阿賀町／島根県：海士町／広島県：神石高原町／愛媛県：伊方町、鬼北町、西予市／沖縄県：久米島町

備考：株式会社 Prima Pinguino（高校魅力化プロジェクト主催）：

<http://pripin.co.jp/>

高校魅力化プロジェクト：<http://miriyokuka.com>



高校生との交流

A7. 工学系日本語教室でのボランティア

日本語教室で留学生向けの授業に参加し、ディスカッションや発表の際に質問を行うなど、留学生と共に学習に取り組んだ。特に上級日本語の授業では、留学生と文化の違いや共通点について交流し、大学院学生とも研究や学生生活について話すことで視野を広げることができた。また、留学生が問題を解く際の質問対応や話す練習の相手を務めた際には、普段話している日本語の難しさを知ることができ、日本語の使い方の新たな気づきを得られた。この経験を通じて、継続的な学習によって外国語でのコミュニケーション能力が向上することを実感すると同時に、異なる文化や日本がどう見られているかを話すことができ、外国語学習のモチベーションが高まった。

日程：2023/10/16(月)-2024/1/22(日)

参加学生：11名

活動場所：東京大学大学院工学系研究科（工学部8号館）

備考：工学系研究科国際教育部門日本語教室：<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/volunteer/>

A8. 自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～

富山県砺波市梅檀山での地域活性化プログラムに参加した。地元の郷土料理や流しそうめんを楽しみながら、住民の声を聞き取り、地域の課題解決策を考えた。高校生とチームを組んで活動し、最終日には提案を発表した。このプログラムでの体験は、普段の生活とは異なる環境で地域の問題解決に取り組む貴重な経験であった。地元の方々の歓迎もあり、充実した日々を過ごすことができた。

問題解決の手法を学び、将来の仕事やキャリアに活かしたいと考えている。弁護士を目指す私にとって、クライアントの問題解決に必要なスキルを身につける有意義な体験であった。

日 程：2023/7/31(月)～8/5(土)

参加学生：8名

活動場所：富山県砺波市内

備 考：令和4年度東京大学体験活動プログラム活動報告会 (YouTube)：

<https://www.youtube.com/watch?v=sfXgzg7e8sk&t=13s>



梅檀山の竹でランタン作り



地域住民からの聴き取り

A9. 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験

今回、「地域メディア」に関する提案を目標に、三浦市の地域交流センター「ニナイト」のスタッフとしてインターンシップに参加した。現地活動では、地域交流センターの会議や他大学のフィールドワークに参加し、市民の声を聞くことに重点を置いた。最終日のプレゼンテーションでは、短期間での提案としてまずまずの成果を上げ、三浦市の方から新しい視点のアドバイスをいただいた。この経験から、地方創生に関わる夢への想いがさらに強まり、現場でできることの限界や難しさを知ることができた。今後の学業にもこの経験を活かしていきたい。

日 程：2023/8/25(金)、8/28(月)～8/31(木)

参加学生：1名

活動場所：三浦市内およびオンライン

備 考：地域の支え合い仕組みづくり事業：<https://www.miuracc.org/sasacai/>

三浦市役所：<https://www.city.miura.kanagawa.jp/index.html>

三浦市民交流センターX (旧Twitter)：@MiuraccNinaite

A10. 未来へつなぐ震災伝承

1日目は、大槌町を訪れ、津波の被害状況を聞き、津波の恐ろしさを改めて実感した。2日目は、被災者の方々の話を伺い、震災後の苦労や経験など、大変さが分かった。3日目は、災害シミュレーションを行い、防災の重要性を学んだ。4日目には、研究所の活動について知ることができた。

このプログラムに参加して、特に防災計画の実行が大切であることや、社会の柔軟性について考えることができた。また、地域の未来やアカデミアの果たすべき役割についても深く考えるきっかけとなった。これからは、この経験を活かして、地域社会への貢献を考えていきたいと考えている。そして、被災地の実情を理解したうえで、自分の進路を考えていきたいと思っている。

日 程：2023/8/1(火)～8/4(木)

参加学生：5名

活動場所：岩手県大槌町

備 考：(一社)おらが大槌夢広場：<http://www.oraga-otsuchi.jp>

東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター：<http://www.icrc.aori.u-tokyo.ac.jp>



「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる蓬萊島



アウトドア体験

A11. 長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業

1日目は長浜の曳山交替式の前日準備を担当し、山車の点検や装飾、曳山博物館での準備作業を行った。2日目は、朝は春日山、午後は鳳凰山の山車を博物館から蔵へ巡行し、曳山を引いた後に片付けと地元の交流会に参加。地域の方々と意見交換を行った。3日目は、長浜市内の寺社や商店を訪れ、地域の歴史や文化についての解説を受けた。曳山を引くことで地域文化に触れ、女性や外国人参加者の増加など祭りの柔軟性に驚いた。都市計画を学ぶ者として、祭りが地域のアイデンティティ形成に与える影響や、後継者不足という課題を考える良い機会となった。来年は本番を見学し、祭りのエッセンスを研究に活かしたい。

日 程：2023/10/13(金)-10/15(日)
参加学生：6名
活動場所：滋賀県長浜市曳山博物館
備 考：長浜市曳山博物館：nagahama-hikiyama.or.jp



曳山準備作業



曳山巡行

A12. フル・インクルーシブ教育を実践する公立小学校でのゲスト・ティーチャー体験

南桜塚小学校でのインクルーシブ教育について、校長や卒業生から話を聞き、授業の様子を見学し、障害児教育の歴史と現状に関する講義を受けた。このプログラムを通じて、インクルーシブ教育の現状に触れる機会を得た。特に、特別な支援を必要とする児童に平等に接している姿に感銘を受けた。この経験を通じて教育への関心が一層広がり、現場で得た知識を大切に、今後もボランティア活動などを通じて現場の問題を直視しながら、日本の教育をより良くするために何が必要かを考え続けたい。

日 程：2023/9/25(月)-9/27(水)
参加学生：29名
活動場所：大阪府豊中市立南桜塚小学校
備 考：豊中市立南桜塚小学校：https://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/m-sakur/
豊中市障害児教育基本方針：https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/keikaku/4bunnyabetu.files/kaiteiban2016.4.pdf

A13. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

町役場や観光農園の訪問、地域コミュニティ活性化の研究会への参加を通じて、多くの貴重な経験を得た。役場や農園の方々から地域の課題や先進的な取り組みについて話を伺い、解決策を提案する機会もあった。また、11日間にわたり地域住民と共同生活を送り、地域社会の温かさを実感した。この経験を通じて、行政の視点を持つことの重要性を感じ、地域活動や施策の意図を理解するようになった。現場に足を踏み入れることの重要性を理解し、さらに他分野にも挑戦していく意欲が湧いた。今後は、大学での学びにこの経験を活かし、地域活性化に貢献する方法を多角的に模索していきたい。

日 程：2023/8/8(火)-8/18(金)
参加学生：3名
活動場所：三重県玉城町
備 考：玉城町役場：https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/
玉城町社会福祉協議会：http://www.tamasya.or.jp/

A14. 気候変動に対応するために個人でできるGXを考えてみよう ～日本マイクロソフト株式会社～

日本マイクロソフト株式会社品川本社を訪れ、会社のビジョンや事業内容について学んだ。オンラインセッションでは、GXや環境問題に関する課題解決の方法を学び、それをもとに自分の解決したい課題を設定し、分析手法を用いて解決策を考え、社員からフィードバックを得た。この経験を通じて、マイクロソフトの魅力を感じるとともに、コンサルティングの実務に触れることができ、有意義であった。今後は、課題発見の姿勢を持ち続け、専門知識を深めるだけでなく、幅広い分野にも知見を広げたいと考えている。また、環境問題に対しては、個人レベルでの解決策を研究し、将来のキャリアに活かしていきたい。

日 程：2023/8/24(木)、9/1(金)、9/4(月)

参加学生：8名

活動場所：日本マイクロソフト株式会社品川本社およびオンライン



マイクロソフトの現場を見る



イノベーションの現場を体験

A15. 学術出版の体験的学習

東京大学出版会の編集、製作、営業部門からのレクチャーや会議に参加し、編集者の仕事の幅広さに驚いた。自分が作りたい本の企画概要書を作成する機会があり、最終日に発表してフィードバックを受けた。編集者は誰かの意見に迎合せず、各自が自分の想いを伝えてくれた。出版への熱い情熱に触れ、本作りの魅力を再確認した。この体験を通じて、本作りのプロセスや編集者の役割・やりがいを深く理解でき、将来出版業界で働きたいという気持ちが強まった。

日 程：2023/8/28(月)～9/1(金)

参加学生：3名

活動場所：東京大学出版会



編集部での作業風景



刊行本が並ぶ本棚の前にて

A16. 町長の秘書業務体験！—現役首長の日々業務に同行し行政現場に向き合う—第2弾

町長の秘書業務として、町長が参加する会議に同行し、地元の行政職員から日野町の歴史や課題について学んだ。最終日には町長に活動の感想を発表した。また、町議会議員との交流や町内の活動取材を経験し、町長や職員が住民と密接に関わる様子を肌で感じた。行政関係者の思いを聞くことで理解が深まった。地方自治の実態を知る中で、理想的な状態を考えがちだが、時間的・金銭的制約の中で働く職員の大変さを実感した。理想と現実の間で実現可能な政策を形作る重要性について、官僚を目指す上で貴重な経験となった。

日 程：2023/8/20(日)～8/29(火)

参加学生：2名

活動場所：滋賀県日野町

A18. JICAの国内の現場で国際協力を知る

JICAの仕事内容に関する講義を受け、納涼会の準備や研修会のスタッフ業務、展示品の提案プレゼンテーションを行った。研修会では議事録を作成し、研修員のための納涼会にも参加した。このプログラムを通じて、JICAの業務や国際協力の重要性を理解し、特にソマリア出身の研修員との交流で自分の無知や先入観に基づく考えを反省した。様々な問題を解決するためには教育が重要であることを知り、将来の教育に対する意識が変わった。国際協力における正解のない問いへの考え方や、日本が他国と共存する重要性を学んだ。将来はJICAのような国際協力の現場で、自分の専門性を活かし、貢献したいと考えている。

日 程：2023/8/17(木)-8/22(火)

参加学生：3名

活動場所：JICA 東京国際センター

備 考：JICA 東京：<https://www.jica.go.jp/tokyo/>

JICA インターンシッププログラム：<https://www.jica.go.jp/recruit/intern/index.html>

東京大学三四郎会：<http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A19. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～

与謝野町の観光プランを考案するため、町長や役場、さまざまな業種の方々から話を伺った。観光事業がどのように貢献できるかや現状の問題点について理解を深め、これらの情報を基に町の現状に即した観光プランを提案した。この経験を通じて、地域おこしに対する考え方が大きく変わった。住民目線での地域おこしの重要性を強く感じ、この機会を通じて所属しているサークルで主催する地域おこしに関するコンテストの運営を行うことを決めた。住民目線で考えることを、今後のサークル活動にも活かしていきたい。

日 程：2023/8/26(土)-8/31(木)

参加学生：3名

活動場所：一般社団法人PLACE および京都府内各所

備 考：与謝野町役場：<https://www.town.yosano.lg.jp/>

与謝野町観光協会：<https://yosano-kankou.net/>

YOSANO WEAVER ～織りなす人：<https://vimeo.com/yosanoweaver>

東京大学三四郎会：<http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A20. 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～

最初の二日間でアパレル業界やその経営について学び、残りの三日間はファッション業界を志す学生と意見を交換しながら、グループでオンワード社の新企画を考えた。初めてビジネスプランを考える体験は非常に有意義であった。また、環境経営など、利益追求だけではない企業の側面を学べたことが特に興味深かった。この経験を通じて、アパレル業界が将来の就職先の候補に加わり、自分の視野を広げたいと考えた。今後はこれらの学びを生活や進路に活かしていきたい。

日 程：2023/8月 5日間

参加学生：3名

活動場所：東京都内

備 考：株式会社 オンワード樫山：<https://www.onward.co.jp/>

東京大学三四郎会：<http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A21. 農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

植物工場の事業を行う会社とその研究室を見学し、説明を受けた。植物工場には最新技術を駆使したものとシンプルな技術を使用したものがあり、それぞれの利点について学んだ。話を聞く中で、工場における最大の課題は電気代であり、その解決には再生可能エネルギーの普及が重要であると感じた。また、薬用植物や苗木など、まだ工場内で育てられていない植物が多く、多品種栽培の推進に興味を持った。将来はこれらの取り組みを後押ししていきたいと考えている。

日 程：2023/8月-9月

参加学生：3名

活動場所：・植物工場研究会（千葉大学 環境健康フィールド科学センター）
・東京大学生態調和農学機構（附属田無演習林）
・株式会社プランテックス（東京都墨田区）

備 考：東京大学生態調和農学機構河鱒研究室：<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/kawabata-lab/>
NPO法人植物工場研究会：<https://npoplantfactory.org/>
プランテックス：<http://www.plantx.co.jp>
東京大学三四郎会：<http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A22. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

1泊2日でサステナジー株式会社が建設した東北の太陽光発電所を見学し、その後、同社と早稲田大学が共同開発した農業用ロボットのビジネス用途を探る活動に参加した。参加者それぞれが事業アイデアを構想し、プレゼンテーションを行った。実際の起業家の話を深く聞くことで、授業や教科書からは得られない深い洞察を得ることができた。また、事業成功のためにできることは何でもやるというマインドの重要性を再認識した。スタートアップ起業家と近くで触れ合えたことで、「起業」が自分にとって身近なものとなった。

日 程：2024/2/26(月)-3/8(金)

参加学生：5名

活動場所：・東京都渋谷区
・東京都あきる野市
・宮城県石巻市

A23. 東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう

今回のプログラムでは、酒蔵での就労体験と日本酒の販売企画に取り組んだ。酒蔵では洗米から瓶詰めまでの一連の作業を体験し、日本酒造りに関する知識を深めた。また、新しい日本酒の販売企画では、現場の意見を取り入れながら提案を試行錯誤してまとめた。蔵人たちの仕事の流れやチームワーク、情報共有の重要性を学び、自分の仕事に誇りを持っている姿勢に感銘を受けた。この経験を通じて、学問だけでは解決できない現場の課題を実感し、社会人としての誇りやチームワークの重要性を学ぶことができた。

日 程：2023/9月-2024/3月(蔵によって活動時期が異なる)

参加学生：11名

活動場所：岩手県、福島県、奈良県、栃木県



酒蔵での就労体験



日本の酒情報館で
日本酒セミナー受講

A24. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 「お笑いファン」向けデジタル・マーケティング

SNSフォロワーの増加やライブ集客の方法をデータ分析を通じて学んだ。前半は東京ドームでのかまいたちさんのライブを想定し、YouTubeやその他のSNSアナリティクスを分析しながら、どの層にアプローチするかをグループで議論し、有効なマーケティング手法を考案した。後半では、『KOYABU SONIC 2023』のSNS運用に関して具体的なチケット購入促進策を提案した。この経験を通じて、SNSでのコンテンツの広め方やマーケティングの基礎を理解し、今後の活動や進路選択に積極的に活かしていきたいと考えている。

日 程：2023/7/12(水)-9/21(木)
参加学生：11名
活動場所：吉本興業東京本部
備 考：FANY：https://fany.lol/



エルフの荒川さん、はるさん×学生



グループディスカッション

A25. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 芸人×東大生 特別授業

吉本興業所属タレントと東大生6人で、山口県周防大島の小学6年生に向けた1日限りの特別授業を実施した。各科目45分の授業を芸人さんと共に準備した。授業内容や時間配分の決定は難しかったが、芸人さんの意見を取り入れることで、小学生の視点から見た授業の取り組みやすさや伝わり方について新たな視点を得ることができた。また、芸人さんの機転や伝える力にも感銘を受けた。小学生たちが笑顔で修了証を受け取った瞬間、この活動の意義を実感した。協働の重要性や地方での活動の魅力を再認識し、将来は地方創生に貢献したいと考えるようになった。

日 程：2023/7/24(金)-10/28(土)
参加学生：6名
活動場所：吉本興業東京本部、山口県周防大島町



授業の様子



特別授業を終えて、笑顔の集合写真

A26. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 「漫才ワークショップ」

漫才作りのプログラムに参加し、NON STYLEの石田さんの指導を受け、漫才の基本やボケの発想法を学んだ。その後、参加者でコンビを組み、ネタを作成し発表も行った。このプログラムでは、漫才の面白さが現実認識のズレにあることを学び、コミュニケーションの重要性を再確認した。また、「面白い」という価値観は人それぞれであり、何を面白いと思うかは価値観の違いによるため、丁寧な対話が必要だと感じた。この経験を通じて、日常の会話や将来の仕事におけるコミュニケーションの大切さ、その能力を向上させることが重要であると認識した。

日 程：2023/9/20(水)
参加学生：11名
活動場所：吉本興業東京本部



ネタ披露



参加者全員で記念撮影

A27. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学 東大×吉本 同期ライブ「笑いの傾向と対策 令和5年度版」

吉本興業の社員の皆さんや放送作家の方と打ち合わせを重ね、お笑いライブの企画を進めた。具体的には、ライブの形式やコーナーの企画、ルール作り、キャスティング、タイトルやサムネイルの決定を行い、当日は出演者として舞台に立つ機会を得た。普段何気なく見ているお笑いの世界を内側から体験でき、とても有意義な時間であった。お笑いを作る過程では、演者や客層、披露される状況を考慮し、どのように笑いを取るかを考えなければならず、その過程に参加できたことは貴重な経験であった。将来、コンサルタントとして発展途上国の問題解決に取り組みたいと考えており、お笑いを作る過程が問題解決のプロセスに近いと感じたので、今後のキャリアに活かしていきたい。

日 程：2023/7/24(金)-11/4(土)
参加学生：4名
活動場所：神保町よしもと漫才劇場



舞台上で奮闘！



お笑いライブ企画の成功を祝して

A28. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）

種子島の企業や施設、学校を見学し、地元の方々との対話を通じて地域問題を考察した。また、歴史的施設や農業・食品加工施設の訪問、郷土料理作り体験、H3ロケットの打ち上げ見学など、多岐にわたる活動を行い、地域の人々の温かさや協力関係を強く感じた。プログラムを通じて地域社会の課題や文化に触れ、自分の視野を広げることができた。この経験を通じて、効率性だけでなく人や環境との関わりを重視していきたいと考えており、多様な経験を積むことの重要性を実感し、今後も新しいことに挑戦していきたいと思った。

日 程：2024/2/13(火)-2/17(土)
参加学生：14名
活動場所：鹿児島県西之表市（種子島）
備考：種子島観光協会：<http://tanekan.jp>
西之表市役所：<http://www.city.nishinoomote.lg.jp>
中種子町：<https://town.nakatane.kagoshima.jp/>
南種子町：<http://www.town.minamitanekagoshima.jp/>



H3ロケット打ち上げの瞬間



高校生と活動

A29. 岩手県花巻市大迫ぶどう色の4日間 2023夏

ぶどうの収穫、選果、梱包など、葡萄農家の仕事を体験した。また、大迫高校生や小学生と共に収穫作業を行い、幅広い年代の方々との交流した。神楽の練習も見学し、地域文化の継承の重要性を感じた。地方創生に興味があり、このプログラムはその実情と活かし方を考える良い機会となった。地域の人々とのつながりや自然との調和を大切にする姿勢に感銘を受け、自分の勉学や生活において、効率性だけでなく人や環境との関わりを重視していきたいと思うようになった。将来は、自分の育った町や農業分野で役立つことができると考えている。

日 程：2023/9/5(火)-9/8(金)
参加学生：2名
活動場所：岩手県花巻市大迫町
備考：花巻市役所：<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/>
まきまき花巻：<http://makimaki-hanamaki.com/>
花巻大迫地域情報発信サイト～Oohasamap～：
<https://oohasama.hanamaki.info/>
東北・岩手のワイナリーエーデルワイン：<https://edelwein.co.jp/>



収穫は丁寧に手作業で



地域の子もたちと一緒に
楽しく収穫作業

A30. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに 伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

プログラム初日は岡山城と後楽園を見学し、おさふね刀剣の里で日本刀の製法や研磨を体験した。続いて、白炭と黒炭の炭焼きを体験し、炭の取り出しと検品を行った。最終日はたたら製鉄の見学と議論を行い、伝統木炭技術保存会の窯も見学した。このプログラムに参加し、日本刀の製作には多くの職人と道具が必要であり、技術と道具の保存が重要であると実感した。特に駿河炭の生産の価値と大変さを体験し、伝統工芸の保存が急務であると感じた。地域産業の保護の重要性を学び、自分もその課題解決に貢献したいと強く思った。

日 程：2024/3/9(土)-3/13(水)

参加学生：5名

活動場所：岡山県鏡野町富地区

備 考：伝統工芸木炭生産技術保存会：<https://www.mokutanworks.com/>
笑楽窯：<https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama>



窯が乾燥し、
火が点けられる瞬間



白炭を製炭

A31. 持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための 科学的アプローチに基づくフィールド実践体験

サステナブルな暮らしを見学し、太陽光パネルやメタンガス生成装置について学んだ。また、伐採や整備の重要性、丸太の製材機械を見学した。幾々温泉では地熱発電についての話を聞き、温泉宿やビール工場、木材チップ加工工場、炭焼き窯を見学した。地域の活性化や循環型社会についても学び、薪割りや農作業を体験した。環境問題の解決には大きな発電所だけでなく、小さな取り組みも重要であることに気付かされた。地域振興や地方自治体の循環型社会の構築を深く理解し、多くの地域を知ることで広い視点を持ち、地域の伝統を守り、課題解決に貢献したいと考えている。

日 程：2023/9/16(土)-9/18(月)

参加学生：5名

活動場所：宮城県川崎町青根地区(蔵王山麓)

備 考：株式会社 百：<https://momo100sho.com/>
<https://www.instagram.com/momo100sho/>



薪割り体験



収穫

A32. 駒場IIキャンパス学食を通じた生産者への 聞き取り・発信ワークショップ

一日目は農家の田んぼで稲の天日干しを体験し、二日目は農業全般についての話を伺い、水源地や酒田の米文化に触れた。芋煮や新鮮な魚、郷土料理を楽しみ、地元の日本酒を味わう機会にも恵まれた。稲作業を通じて充実感を得る一方、農業にかかる多大な手間や、高齢化による人手不足の課題も実感した。今回の経験を通して、美味しい食べ物の裏にある生産者の努力を深く理解し、農業の重要性を改めて感じた。今後は農業支援や情報発信を通じて、地域に貢献していきたいと考える。

日 程：2023/10/14(土)-10/16(月)

参加学生：3名

活動場所：・駒場IIサーチキャンパス学食「ダイニングラボ」
・山形県飽海郡遊佐町

備 考：鳥海山・飛鳥ジオパーク 推進協議会事務局：
<https://chokaitobishima.com/area/yuza>
食堂コマニ：<https://shokudo-komani.com/>



天日干しを体験



お世話になった農家さんと

A33. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で 水環境と生態系保全を考える

しじみ漁や宍道湖の伝統漁法を体験し、サルボウ貝の養殖作業を行った。具体的には、水中カゴの引き上げや貝の付着物除去、魚の絞め方、しじみの選別方法を学んだ。また、保健環境センターの調査船で水質や塩分躍層の調査を行い、清掃センターや水鳥公園での環境保全の取り組みについても学んだ。環境保全や地方創生、地元の歴史や文化についても教わり、非常に貴重な経験となった。今回の経験を通じて、地方都市の維持の重要性を実感し、現地の生の声や現状を知ることができた。これらの学びを今後の大学での学びに役立てたいと考えている。

日 程：2023/8/22(火)–8/26(土)

参加学生：3名

活動場所：中海・宍道湖・大山圏域

備 考：宍道湖漁業協同組合：<http://shinjiko.jp>

米子水鳥公園：<https://www.yonago-mizutori.com/>

宍道湖グリーンパーク：<https://www.green-f.or.jp/gp/index.html>

島根県宍道湖・中海対策推進室：

https://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/



しじみ漁のお手伝い



地域のみなさんと

A34. 森の人になろう—森と暮らす仕事

夏と冬に1泊2日の活動を行い、森の手入れや木の伐採、炭焼き、薪割りなどを体験した。夏は枝刈りや芝刈りを行い、冬には薪割りや落ち葉焚きを行った。また、ハチの巣から幼虫を取り出す作業や炭焼きの体験も行った。

これらの活動を通じて、森林資源の活用には人間の介入が必要であることを学んだ。美しい森林は自然にできたものではなく、人の手入れが必要であると実感し、間伐や木の伐採の重要性を理解した。

この経験を経て、就職活動や大学生活において森林環境を重視する姿勢が芽生え、演習林の見学や手入れ体験を通じて新たな視点を得ることができた。

日 程：夏の部：2023/8/24(木)–8/25(金)

冬の部：2023/12/16(土)–12/17(日)

参加学生：2名

活動場所：附属演習林富士癒しの森研究所（山梨県南都留郡山中湖村）



焚火



芝刈り

A35. 森が社会に貢献する—持続可能な森づくりへの挑戦—

冬の北海道演習林で技術職員の方と林内作業を行った。主な作業は蓄積調査で、樹種と立木量の調査を担当した。具体的には、さきよみ、コンパス、輪尺、野帳を用いて作業を行い、積雪深の計測、地下水位系の調整、水質分析も行った。蓄積調査を通じて樹種の判別方法を学び、UAV（無人航空機）を利用した測定技術の重要性と可能性にも触れた。また、地域ごとに異なる森林管理法の大切さを理解することができた。この体験を通じて、将来の具体的なビジョンが描けるようになり、持続可能な森林管理に携わりたいと強く感じた。次は夏の演習林を体験し、国内外のさまざまな場所での学びを意識して大学生活を送りたい。

日 程：2023/9月–2024/3月

参加学生：4名

活動場所：附属演習林北海道演習林（北海道富良野市）

備 考：北海道演習林：<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>

A36. 伊豆の体験活動—南伊豆という—地域との連携に学ぶ—

2月は南伊豆でイノシシ肉を使ったソーセージ作りを体験し、肉の処理からスパイス混ぜ、腸詰め、燻製、茹でまでの工程を行った。また、野草の収集も行った。3月には林業の見学と実習に参加し、伐採現場の見学や薪割り、椎茸の杭打ちを体験したほか、鯉節工場も訪れた。この経験を通じて、獣害対策において地域の人々が害獣との共存を望んでいることを新鮮に感じた。林業現場の見学では、標準的な現場と急斜面の違いを比較し、南伊豆の産業と環境の有機的なつながりを実感した。今後も林業や獣害対策の動向に注目し、アンテナを張り続けたい。

日 程：①2024/2/17(土)-2/19(月)
②2024/3/16(土)-3/18(月)

参加学生：5名

活動場所：附属演習林樹芸研究所（静岡県南伊豆町）

A37. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と 冬のオホーツク文化体験

北海道での考古学研修に参加し、講義や博物館、遺跡見学を通じて地域の歴史を学んだ。勾玉作り体験や写真フィルムのデジタル化・保存作業も行い、模擬展示解説では続縄文時代の勾玉や擦文土器について発表した。北海道の考古学的な歩みを学ぶ中で、オホーツク文化が北方からの異民族に起源を持つことや、クマ送りの儀礼を知ることができたのは有意義であった。また、続縄文・擦文・オホーツク文化について実地で学び、考古学研究や学芸員による地道な調査の重要性を実感した。この経験を通じて、地域の歴史は一括りにはできないことを理解したため、今後の学びにおいても知識を鵜呑みにせず、例外を探究する姿勢を持ち続けたい。

日 程：2024/2/5(月)-2/8(木)

参加学生：5名

活動場所：・東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設

・北見市ところ遺跡の森（北海道北見市常呂町栄浦）

備 考：常呂実習施設・常呂資料陳列館：<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

北見市・ところ遺跡の森：<http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



北海道の冬の魅力を体感



網走監獄の体験監獄食

A38. 保育・幼児教育に関する渋谷区の取り組み（渋谷プロジェクト）を知ろう

渋谷区の保育関連施設を訪問し、見学や担当者へのヒアリングを行った。普段触れることのない保育現場や、平日の昼間に子育て世代が集まる場所を訪れ、その様々な工夫を体感した。地域としての子育て支援の一部を総合的に見ることができ、各年齢の子どもたちの日々の過ごし方や発達の度合いを知り、今後の勉強や研究に活かしていきたいと思った。また、先進的な子育て支援を見せていただき、保健師や保育士として地域の子育て支援を軸に進路を考える際に非常に有益な経験となった。

日 程：2023/9/25(月)、9/28(木)

参加学生：1名

活動場所：・東京大学本郷キャンパス

・渋谷区内の保育園

備 考：発達保育実践政策学センター渋谷プロジェクト：

<https://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/research/shibuya-project/>

発達保育実践政策学センター：<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>

A39. 「東大の森」の教育研究を支えよう！ ～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～

千葉演習林で、苗畑の除草、生木の伐採（伐倒）、原木の加工、移動用の歩道づくり、木へのロープクライミングなどの作業を体験した。また、演習林の先生とのディスカッションにも参加した。この経験を通じて、日本に多く存在する森林について、その内情を全く知らなかったことに気づかされた。さらに、草花と樹木の性質の違いを初めて知り、林業が抱える採算性の確保の難しさについても理解を深めることができた。このプログラムを通じて、森林への関心が学問的なものに発展する可能性を考えることができ、将来の進路の選択肢が広がった。

日 程：2023/8/22(火)–8/25(金)

参加学生：1名

活動場所：附属演習林千葉演習林（千葉県鴨川市天津）

備 考：千葉演習林：<http://www.uf.a.utokyo.ac.jp/chiba/>
<https://www.facebook.com/東京大学-千葉演習林-509050409292447/>



枝打ち



林道整備

A40. 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画 開発プロジェクト

益田市役所観光交流課職員の方と共に、観光地を巡り、地元の方々と交流した。中世益田の地理・歴史を学ぶため自転車で寺社を訪れ、地域の視点から多くの学びを得た。山本市長との意見交換や、空港推進プログラム、匹見小・中学校での交流を通じて、地方都市の過疎化問題や地域の魅力を実感した。都市経済学への興味も芽生え、今後は、自分の知識や経験の範囲を広げ、心を掛け、未知の分野や課題に積極的に挑戦していきたいと考えている。

日 程：2023/9/12(火)–9/15(金)

参加学生：2名

活動場所：島根県益田市

備 考：益田市役所：https://www.city.masuda.lg.jp/kanko_bunka_sports/kankojoho/index.html
歴史・文化財：https://www.city.masuda.lg.jp/kanko_bunka_sports/rekishi_bunkazai/index.html
一般社団法人益田市観光協会：<https://masudashi.com/>



自転車で益田市を巡る

A41. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～

初日は研究林の集水域の外縁を散策し、2日目以降は木の幹の周長測定や堰の砂を掻き出す管理作業を体験した。ドローンや尺を使った土砂量、流量、森林の測量、気象観測も行った。これまで森林の研究や林業は地味で発展しにくいと思っていたが、実際には発展の速度がゆっくりなだけだと分かった。情報技術に比べて森林の巨大さに対して人間の役割が重要であると感じた。将来、直接森林と関わることは少ないかもしれないが、環境の観点から物事を見る重要性を実感し、地道な調査の大切さも学んだ。これらの経験を今後の研究や仕事に活かしていきたい。

日 程：2023/9/26(火)–9/29(金)

参加学生：2名

活動場所：附属演習林生態水文学研究所赤津研究林（愛知県瀬戸市北白坂町）

備 考：附属演習林生態水文学研究所：<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>

A42. 日本の伝統文化である花火について知り、 花火について考える

最初に花火の歴史や製法について学んだ。その後、実際の花火大会「花火甲子園」では、チケット受付のボランティアを担当し、報告会に向けて運営改善策を提案した。このプログラムへの参加を通じて、花火一発一発に込められた思いや、その一瞬のために注がれる労力に深く感銘を受けた。また、花火師が抱える厳しい状況を知り、伝統を引き継ぎ、現状を広く伝えることの重要性を実感した。地方の花火大会における課題にも触れ、日本の伝統文化の存続と発展について考えるきっかけとなった。今後は、花火鑑賞の幅を広げるために花火鑑賞士の資格を目指し、学んだことを社会に伝えていきたいと考えている。

日 程：2023/7月-12月

参加学生：10名

活動場所：東京都、秋田県、愛知県

備 考：大曲の花火～秋の章（2022.10.1）：

<https://www.youtube.com/watch?v=1Z1zQTudxEY>

一般社団法人 日本花火推進協会：<https://hanabi2020.jp/>



両国花火資料館で花火の歴史と
構造を学ぶ



打ち上げ場所

A43. 中山間地域を見る・感じる・考える ～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

農業、市政、地域のステークホルダーと意見交換し、農業体験を行った。最終日には1週間の活動をまとめ、鷹栖町の良さや課題点を発表した。今回の農業現場での経験を通じて、日本の農業にも情熱を持ち、具体的な将来像を描き、「お金の稼げる」農業を目指している人々が多くいることを知った。農業のイメージが変わり、新しい取り組みや工夫が多いことを認識した。この経験を通じて、農業の持続可能性を経済面から研究することに興味を湧いた。

日 程：2023/8/18(金)-8/24(木)

参加学生：4名

活動場所：北海道鷹栖町



農業体験の様子



町長と役場のみなさんと

A44. 「クリケット」を通じて世界を知ろう！ ～クリケットを通じた国際交流～

クリケットの試合観戦と体験イベント「CrickeTRY」に参加した。試合観戦では、クリケットの基本ルールや日本での普及状況について学び、CrickeTRYでは学外の方々とチームを組んで試合を行い、クリケットの魅力を体感した。日本におけるクリケットの普及の難しさを知りながらも、普及に努める人々の姿に感銘を受け、目標に向けて積極的に取り組む姿勢の重要性を実感した。この体験は、新しいスポーツへの触れ合いや国際交流の貴重な経験となった。

日 程：2023/9月-12月

参加学生：3名

活動場所：大宮けんぼグラウンド（さいたま市）、東京都内

備 考：「Cricketry 2020」の様子：

<https://www.youtube.com/watch?v=iip05CXTBLI>



イベント会場



クリケットの防具と道具

A45. 不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形

普段学校に馴染めない子どもたちが新たな学びを得るプログラムに大学生サポーターとして参加し、活動をサポートした。主な役割は、子どもたちへの適切な声かけや環境づくりであった。プログラムを通じて、子どもたちの個性を引き出し、彼らが自分の考えを言えるようになる姿に感動した。将来は教育や心理に関わる仕事をめし、大学院でこの経験を活かして研究することを考えている。

日 程：2023/9/28(木)、10/12(土)、10/26(土)、11/2(土)、11/9(土)、12/1(日)

参加学生：7名

活動場所：全国各地

備 考：かまくら ULTLA プログラム：<https://kamakura-ultla.com/>
ロートこどもみらい財団：<https://future-for-children.rohto.co.jp/>
ビオスの丘：<https://www.bios-hill.co.jp/>
東京大学未来ビジョン研究センター：<https://ifi.u-tokyo.ac.jp/>

A46. 陶板複製名画美術館における学芸員体験

陶板画の制作方法や展示構成、作品背景について学んだ後、定時ガイドとして活動した。主な役割は、美術館の概要説明やシステーナホールの天井画・壁画の解説であった。来館者に美術館の見どころやミケランジェロの絵画を紹介し、閉館時刻までの過ごし方を案内した。3日間で原稿なしの20分ガイドを準備するのは大変だったが、美術館職員から多くの知識を得て、来館者からの前向きな反応が励みとなった。作品の背景を調査することで鑑賞体験が深まり、芸術への興味とプレゼンテーションスキルも向上した。



システーナ・ホールで

日 程：2023/8/23(水)–8/25(金)

参加学生：5名

活動場所：大塚国際美術館（徳島県鳴門市）

備 考：大塚国際美術館：<http://www.o-museum.or.jp/>



美術館にて

A47. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える

新宮市の皆さんにお世話になり、ミニレクチャーや熊野三山（新宮・本宮・那智）の訪問、熊野古道の体験、市長との食事会が行われた。特に印象に残ったのは、熊野古道を無心で歩いたことで、この体験は非常に心地よく、熊野信仰との五感のつながりを実感した。また、熊野の聖地としての歴史や、聖と俗の共存についても多くを学ぶことができた。この経験を通じて、文化財の意義やその保全・活用に対する興味が深まった。「熊野学」に触れることで知識のつなげ方も学び、地元の方々との交流から得た経験を今後の学業に活かしたいと考えている。

日 程：2023/8/28(月)–8/31(木)

参加学生：10名

活動場所：和歌山県新宮市、那智勝浦町、紀伊田辺市



那智の滝

A48. 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう

初日に防疫学の講義を受けた後、馬の世話では餌やり、銜のつけ外し、曳き馬、乗馬、厩舎の掃除、馬の体重測定を体験し、その後、豚舎の見学を行った。二日目は、午前中に牛の管理として搾乳、餌やり、牛舎の掃除、餌のミックスを体験し、午後には山羊の世話と農業機械の操縦体験を行った。三日目には、チーズとバター作りを実際に体験し、朝倉牧場を見学した。特に馬や牛の世話を通じて動物への恐怖感が和らぎ、動物の食事に対する気配りの重要性を学んだ。この経験を通じて、畜産業の重要性やその課題を理解し、将来的には畜産業に貢献できるシステムやロボットの研究を進めたいと感じた。

日 程：2023/9/4(月)–9/6(水)
参加学生：2名
活動場所：農学生命科学研究科附属牧場（茨城県笠間市）
備 考：附属牧場：<http://www.bokujo.a.u-tokyo.ac.jp/>



乗馬体験



山羊に餌やり

A49. どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）

人参畑の草取りを中心に、大根、大豆、りんごの収穫や葉取り、トラクターの操作などの農業体験を行った。農薬や化学肥料を使用しない農場での体験は、農業の苦労や工夫を学ぶ貴重な機会であった。特に、大根の市場に出せない部分を塩漬けにして加工メーカーに運ぶビジネス形態や、Instagramを用いた販売方法など、新しい農場経営の形を学ぶことができた。この体験を通じて、農業、漁業、林業の現状とビジネスモデルを理解し、将来の新たなビジネスモデルの提案に役立つ貴重な思考材料を得ることができた。

日 程：2023/8/28(月)–9/5(火)
参加学生：6名
活動場所：青森県深浦町
備 考：深浦町役場：<https://www.town.fukaura.lg.jp/>
深浦ってどこ？（深浦町観光公式サイト）：<http://fukadoko.jp/>
舳作興農組合：<http://www.henashi.jp/>



人参畑の草取り中の様子



漁船でのクルージング

A50. 暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える ～京都府亀岡市～

初日は亀岡市長や保津川遊船の理事長、ユニクロ亀岡店の講話を聞き、亀岡市の環境問題への取り組みについて学んだ。2日目にはアユモドキに関する説明を受けた後、川での採集を行い、魚の多様性を実感した。最終日にはニホンミツバチの養蜂園を訪れ、採蜜体験を通じて養蜂の現状を学ぶことができた。環境先進都市の一員として、市民が地域一体で環境問題に取り組む姿勢に感銘を受けた。将来的には地方自治体の政策立案に携わり、日本全体に影響を与える政策を実行したいと感じた。この活動を通じて、自分自身も環境を守る意識を持ち、日常生活の中で実践していきたいと思った。

日 程：2023/9/22(金)–9/24(日)
参加学生：5名
活動場所：京都府亀岡市
備 考：亀岡市役所：<https://www.city.kameoka.kyoto.jp>
亀岡市観光協会：<https://www.kameoka.info/charm/>



亀岡市の環境問題を学ぶ



天然記念物アユモドキの調査活動

A51. 地域住民の健康を守るために医療機関が行う地域活動体験プログラム

福山の「五本松の家」や鞆の浦の「さくらホーム」を訪れ、施設で働く方々や利用者の方々と話をした。地域や施設、病院が抱える医療の問題について教えていただき、ディスカッションを通して考えを深めた。2つの地域やさまざまな立場の方々からの話を伺う中で、地域の医療体制が医療機関外のコミュニティナースや民生委員などによって支えられていることを学んだ。また、病院と地域が一体となっている現実を理解し、地域密着型の取り組みの重要性を実感した。この経験を活かし、将来は医療・保健・福祉政策の研究を進め、地域と連携する政策立案を目指すことを考えている。

日 程：2023/9/20(水)-9/22(金)

参加学生：2名

活動場所：・脳神経センター大田記念病院
・地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家（広島県福山市）

備 考：脳神経センター大田記念病院：<https://www.shouwa.or.jp>
地域密着型特別養護老人ホーム 五本松の家：<https://5pines.jp/facility/staff>

A52. まちを変える、まちが変わる～(株)豊島区 体験入門～

豊島区役所の方々に案内していただき、池袋周辺の現地調査を行った。調査の結果を踏まえ、「池袋とその他地域の分断」という課題について解決策を考案した。このアイデアは、豊島区の地域活性化に賛同する企業が集まる会で発表する機会を得た。この経験を通じて、普段の生活圏である池袋の良い点や課題を発見し、自治体の具体的な動きについて学ぶことができた。また、まちづくりに関して、さまざまな団体や企業が連携して協力する必要があることを実感した。公務員として地域改革を行う方法や、企業が自治体と連携して地域を変える手法を学び、今後の進路に活かす意欲が高まった。

日 程：2023/8/2(水)、8/8(火)、9/2(土)

参加学生：6名

活動場所：東京都豊島区内

備 考：豊島区役所：<https://www.city.toshima.lg.jp/>
としまSDGsアクション！：

<https://www.city.toshima.lg.jp/461/2507301013.html>



地域活性化に向けたアイデアを発表

A53. 野宿学（雪国編）

「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」

野宿学ではイグルー作りを体験した。1日目はプロの指導で新雪を移動させ、圧雪層からノコギリでブロックを作り、円形に積み上げて3時間でイグルーを完成させた。2日目は雪質を見極めながら、約5時間で自分が寝られるサイズのイグルーを仕上げた。自分の寝床を作る責任感や、体力を消耗しながらの作業、極寒の野宿は貴重な体験であり、タフさを実感した。また、雪質の違いを学ぶことで、雪と対話する感覚も得た。サステナビリティの観点からも、自然を守るための意識が高まった。

日 程：2024/2/16(金)-2/18(日)

参加学生：5名

活動場所：長野県飯山市

備 考：東京大学野宿学イグルー作って一晩過ごす：
<https://www.youtube.com/watch?v=hVVRUQoFIHcA>



イグルー作成中・朝景色



イグルーで就寝

A54. 帰還困難区域の「街づくり」を考える。 —復興に対する多様な「想い」に触れながら—

福島県双葉町でのコミュニティ再興活動に参加し、現地を3回訪問した。初めに現地視察を行い、震災前からの住民や新移住者、町役場の職員へのヒアリングを実施。調査結果に基づき、伝承館でプレゼンテーションも行った。このプログラムを通じて、実際のヒアリングや発表の経験を得た。また、震災に対するイメージが変わり、現地の実情とメディア報道とのギャップにも気づいた。この経験は、私の研究方向性を決定づける重要なきっかけとなった。

日 程：2023/8/7(月)-8/8(火)、9/22(金)-9/23(土)
参加学生：13名
活動場所：福島県



現地視察とヒアリング調査

A55. DBJとともにあなたのアイデアをビジネスにつなげよう～女性起業家を招いて～

提示された問題の解決策を考え、ビジネスプランとして発表した。我々の班は、段ボール箱が傷ついた際の物流ロスを減らす方法を模索した。問題の原因を議論し、データ収集や仮説を立てながら具体的なビジネスプランを作り上げた。また、関係者との意見交換を行い、ビジネスプランが突然のアイデアで成り立つものではなく、原因の解明とデータに基づく段階的なプロセスであることを学んだ。フェルミ推定を用いた数値評価が評価され、大きな励みとなった。問題解決には「なぜ」を繰り返し追求する姿勢が重要であり、これを通じて深い理解が得られることを実感した。今後もこの姿勢を貫きたいと考えている。

日 程：2023/8/7(月)、8/8(火)、8/10(木)
参加学生：4名
活動場所：日本政策投資銀行会議室
備 考：日本政策投資銀行：<https://www.dbj.jp/>
DBJ スタートアップサポートセンター：<https://www.jeri.or.jp/wec/>



日本政策投資銀行本店

A56. 高知県高知市を舞台とした地域価値向上のための 企画コンサルティング活動

高知県の農林水産業が盛んな地域を訪れ、現地の実情をヒアリングし、実際の仕事を体験した。最終日には各グループで考えた地域振興策を発表し、私のグループは「『食』のブランディング」をテーマにした。この経験を通じて、地方創生の課題は地域ごとに異なることを実感し、自分の出身地とは異なる課題と解決策を認識した。また、現地の声を反映した振興策の重要性を理解し、机上の空論に陥らないことが大切だと感じた。高齢化が進む地方の持続可能性に関する問題に直面し、将来は幅広い分野で地方創生に関わりたいと考えるようになった。

日 程：2023/8/20(日)-8/26(土)
参加学生：13名
活動場所：高知県高知市



キャッサバ畑



最終プレゼン・高知市役所にて

【海外プログラム】

B1. 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流

北京では北京校友会との交流を行い、上海では中国校友会の懇親会に参加したほか、浦東新区の都市計画の展示も見学した。特に大学訪問では、清華大学、北京大学、復旦大学の学生との交流が印象的だった。清華大学や北京大学では、日本語を専攻する学生とお互いの大学事情や両国の教育について様々な話をし、知見を広げることができた。普段ニュースでしか中国情勢に触れないため、自分の目で中国の現状を見て学べたことは非常に貴重だった。また、東大OBや日系企業に駐在する日本人の方からお話を伺うことで、30年以上前から現在にかけての日本との比較や急速な発展、現在抱えている経済状況についての理解を深めることができた。

日 程：2024/3/4(月)–3/13(水)
参加学生：10名
活動場所：中華人民共和国 北京市と上海市
備 考：Science Portal China：https://spc.jst.go.jp/
Record China：http://www.recordchina.co.jp/



博雅塔 (北京大学)



日晷 (清華大学)

B2. 大学・企業・文化体験 in 韓国2023年—韓国を知る、韓国から日本を見る—

ソウル大学生との交流では、博物館巡りや観光、食事を通じてコミュニケーションを深め、「日韓の教育制度」と「首都圏集中問題」についてディスカッションを行った。また、ホームステイを通じて現地の生活を体験した。企業や研究所、大学教授、大使館で働く方々から話を伺い、都市開発や法律業務、民間外交について学んだ。特に、伝統的な建物の復元や現代的な設備を用いた文化施設の見学は貴重な体験であった。韓国のカルチャーは魅せ方が上手であり、建物もその一例だと感じた。このプログラムを通じて、韓国と日本の課題に対する理解を深め、今後は海外で働くチャンスを視野に入れるようになった。

日 程：2023/8/22(火)–8/30(水)
参加学生：10名
活動場所：ソウル近郊、ソウル大学

B3. シンガポールでビジネスを学んでみよう

卒業生が勤める18社を訪問し、各社のキャリアや事業内容について説明を受け、ディスカッションを行った。訪問先の企業は多岐にわたり、現地で独立した人や駐在員として働く人々のさまざまなキャリアパスを学ぶことができた。

シンガポールにおける制度面とキャリアパスの二つの側面から、多くのことを学んだ。制度面では、トップダウン型的意思決定による選択と集中が徹底されており、人材育成や産業政策においても効率的な資金配分が行われている。キャリアパスに関しては、仕事を通じて、一つのスキルを身につけるために努力をすることが重要であり、誰にも負けない強みを持つことが海外での活躍につながることを学んだ。

日 程：2023/9/2(土)–9/10(日)
参加学生：8名
活動場所：シンガポール
備 考：シンガポール淡青会：https://tanseikai.sg/



企業訪問へ



マーライオンとシンガポールの夜景

B4. TOPS2023 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2023)

オックスフォード大学で古典学や法律の授業に参加し、西洋古典学やTrustといった日本には存在しない法律概念を学んだ。プログラムを通じて、イギリスのカレッジ制や教育制度を体験し、日本の大学との明確な違いを実感した。この経験を通じて、日本の教育環境に甘えることなく、常に貪欲に学び続ける姿勢の重要性を再認識した。また、英国の大学院進学を視野に入れるとともに、商事分野での英国法の役割を再確認し、英米法に関する知識をさらに深める意欲が強くなった。

日 程：2023/8/6(日)-9/4(月)

参加学生：8名

活動場所：オックスフォード大学 (University of Oxford) ・その他

備 考：オックスフォード大学：<https://www.jesus.ox.ac.uk/>

Mayer Brown (法律事務所)：<https://www.mayerbrown.com/>

PwC：<https://www.pwc.co.uk/>



オックスフォード大学



学食

(オックスフォード大学)

B5. 英国ロンドン、海外で働くとは

日系企業のロンドン支部を中心に訪問し、社員との交流を通じて海外での働き方やキャリア選択について学んだ。多様なバックグラウンドを持つ日本人社員とのディスカッションを通じて、柔軟なキャリア選択の重要性を実感した。特に、世間体にとらわれず、自分の興味やライフプランに基づく選択が大切だと気づいた。今回の経験を経て、海外での可能性を広げたいと思うようになり、まずは勉学に全力を尽くす決意を固めた。

日 程：2024/2/19(月)-2/24(金)

参加学生：13名

活動場所：英国ロンドンおよび近郊

備 考：英国赤門学友会：<https://www.akamonkai.uk/home>



交流を楽しむひととき

B6. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

リヤドのプリンセス・ヌーラ大学でアラビア語を学び、伝統料理を作りながら現地の学生や職員と交流し、サウジアラビアの社会や人々の生活を体験した。ショッピングモールや歴史的遺跡を訪れ、多様な文化に触れる貴重な経験を得た。現地のホスピタリティに感謝し、学びの熱意に刺激を受け、将来はこの経験を活かして世界に貢献したいと考えるようになった。

日 程：2024/3/3(日)-3/8(金)

参加学生：6名

活動場所：リヤド、サウジアラビア

備 考：プリンセス・ヌーラ大学：<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

東京大学GS + I総括寄付講座：<http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

B7. アラブ首長国連邦の「いま」

Khalifa大学やUAE大学を訪問し、現地の学生と交流した。また、日系企業や国際エネルギー機関、サステナブルシティも訪れ、UAEのエネルギー開発について学んだ。ドバイで働く日本人や現地の学生との交流を通じて、アラブ圏やイスラム教への理解が深まり、ポスターセッションや英語でのディスカッションが刺激となった。この経験から、海外で働くことや新しい価値観に触れる重要性を実感し、ホスピタリティの大切さを認識した。プログラムを通じて国際的な場で働く目標が明確になり、勉学に対する意欲が高まった。

日 程：2023/9/9(土)–9/18(月)

参加学生：6名

活動場所：アラブ首長国連邦・アブダビ首長国（アブダビ市、アルアイン市）、ドバイ首長国

備 考：東京大学GS + I総括寄付講座：<http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>
Khalifa University：<http://www.ku.ac.ae/>
UAE University：<https://www.uaeu.ac.ae/en/>



参加学生たちと一緒に



訪問先の皆さんと

B8. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション

ハーバード大学医学部の研究室を訪れ、日本人研究者からアメリカでの生命科学研究や日米の研究環境の違いについて伺った。交流やポスター発表のディスカッションが刺激となり、アメリカ留学への興味が深まった。この経験を通じて、女性研究者としてのキャリアへの不安が和らいだ。多様な進路を理解し、学問に向けて努力する意欲が高まった。

日 程：2023/8/11(金)–8/20(日)

参加学生：8名

活動場所：アメリカ合衆国、ボストン

備 考：受入担当 Hisashi Umemori 先生：
<https://umemorilab.wordpress.com>



ハーバード大学医学大学院
の前で



訪問した先生と

B9. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

シカゴとワシントンDCで、日本人の駐在者や就職者から海外生活の経緯や日米の職場環境の違いを伺い、質疑応答を行った。また、日本企業や在外公館、現地大学を訪問し、卒業生との意見交換を通じて、日本と欧米の労働慣行の違いを理解した。さらに、現地での人脈作りの重要性やアカデミアにおけるコネクションの大切さを実感し、海外で働くことへの興味がさらに具体化した。

日 程：2023/8/23(水)–8/30(水)

参加学生：10名

活動場所：米国シカゴ市、ワシントンDC周辺



ノースウェスタン大学



訪問先で

B10. ニューヨークでキャリアを切り開く生き方

ニューヨークで働くOBOGを訪問し、国際機関や外資金融、日系企業、起業家、弁護士事務所、NPO、大学などのキャリアや働き方を学んだ。このプログラムへの参加は、ニューヨークで働くことへの憧れを現実的な計画に変える助けとなり、地域の多様性やユニークな文化を体感する貴重な機会となった。特にMBA取得者が多いことに影響を受け、アメリカのMBAプログラムへの強い興味が高まった。

日程：2023/8/28(月)-9/1(金)
参加学生：7名
活動場所：米国ニューヨーク市およびその周辺



NY証券取引所を見学



NYの地下鉄での移動中

B11. Sustainable agriculture experience at Organic Farm (USA)

平日は朝7時から12時まで農作業に従事し、種まきや草取り、収穫を体験した。木曜日の午後はマーケットを手伝い、空いた時間にプリンストン大学やフィラデルフィアを観光した。有機農業のコスト削減の可能性や、人との繋がりを実感し、質を重視する価値観を学んだ。豊富なオーガニック商品に驚き、環境に優しい暮らしを選択する社会の実現に貢献したいと考えたようになった。

日程：①2023/8/5(土)-8/19(土)
②2023/8/19(土)-9/2(土)
③2023/9/2(土)-9/16(土)
参加学生：8名
活動場所：Orchard Farm Organics
備考：Orchard Farm Organics :
<https://www.orchardfarmorganics.net/index.html>



農場のご夫妻と



農作業体験

B12. ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験 (米国)

平日は農場で収穫、植え替え、出荷、雑草取りなどの作業を行い、自炊を通じて有機農業を体験した。休日には地域文化に触れる活動も行った。CSA(地域支援型農業)の本当の価値はコミュニティにあることを学んだ。この経験は、現代社会における人間と自然の関係を見直すきっかけとなり、環境問題への新たな視点や農業への興味を得た。また、有機農業の理想と現実のギャップを体感し、その重要性と実践の難しさを理解した。

日程：2023/9/9(土)-9/23(土)
参加学生：3名
活動場所：The Hickories
備考：The Hickories : <http://www.Thehickories.org/>
The Hickories 紹介ビデオ (University of Connecticut 作成) :
<https://www.youtube.com/watch?v=8nOJ8bXkZtg>



農場の皆さんと一緒に

B13. シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験

桑港赤門会のコンタクトリストをもとに、東京大学の卒業生やシリコンバレーの専門家と面会し、興味のあるテーマに関連する仕事について話を伺った。プログラムを通じて、宇宙スタートアップの市場規模やビジネス側の人材の重要性を理解し、キャリア形成の新たな視点を得た。この経験は今後の進路をじっくり考えるきっかけとなった。

日 程：2023/8/19(土)–8/26(土)
参加学生：10名
活動場所：米国カリフォルニア（シリコンバレー周辺）
備 考：桑港赤門会：www.akamonkai.org



カリフォルニア大学バークレー校



受入側の皆様と

B14. ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！ ～ハノイの学生・企業等との交流（訪問先はオーダーメイドで調整可能）～

現地では、JICAや日本大使館、三菱地所、Momo、Masanなどの企業を訪問し、日越大学やハノイ法科大学で現地の学生と交流した。また、農業試験場の見学を通じて、ベトナムの国際関係や多様な視点について学んだ。日本とベトナムの職場環境の違いを体感し、海外で働く理解が深まった。今後はこの経験をもとに、海外での就職活動に活かしていきたい。

日 程：2023/8/21(月)–8/25(金)
参加学生：12名
活動場所：ハノイ
備 考：ベトナム日本大学（Vietnam Japan University）：
<https://vju.ac.vn/VietnamJapanUniversity.html>



日越大学



食事会

B15. インドに向けて東大・日本の魅力を発信—日本留学推進活動

現地では、JF、JICA、日本大使館、そして日本企業で働く方々とインドにおけるビジネス戦略について意見交換を行った。また、インドの大学で学生たちと交流し、日本とインドのビジネスの可能性について考察した。IIT Delhiの学生や地元のガイドとの対話を通じて、多様なバックグラウンドを持つ人々の生の声に触れることができた。この経験は、インドの実情を理解し、世界との繋がりを再認識する貴重な機会となった。今後は、海外での経験を活かし、広い視野で進路を考えたいと感じた。

日 程：2023/9/20(水)–9/25(月)
参加学生：10名
活動場所：インド、ニューデリー
備 考：東京大学インド事務所：
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/utindia/en/index.html>
インド赤門会：
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/utindia/en/akamonkai.html>



デリー大学



ガンジス川にて

B16. 台湾大学実験林での体験活動 ～亜熱帯の森林と林業を学ぶ～

台湾大学の演習林で、台湾の森林の多様性や木材の利用、お茶の生産状況を学んだ。特に、針葉樹林の異なる景観や竹の主要資源としての利用が印象的だった。また、演習林は森林セラピーが楽しめる観光地として工夫がされており、塗り薬やクレヨンの製作が体験できる点も興味深かった。このプログラムを通じて、日本以外の森林運営についての新たな知見を得ることができた。

日 程：2023/9/21(木)–9/26(火)
参加学生：10名
活動場所：台湾大学実験林（南投県）
備 考：台湾大学実験林：<https://www.exfo.ntu.edu.tw/jp.php?id=2>
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林：
<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>



溪頭自然教育園区



台湾大学・木材利用センター

B17. 中国・海南島の自然保護区管理を知る

中国の海南島で一週間、3つの自然公園や仏教施設、動植物園を巡り、海南島の豊かな自然や保護活動を学んだ。また、日本の自然保護との比較を通じて、双方の取り組みの利点や課題を考えた。現地で聞いた経済発展と自然保護のバランスに関する話が特に印象的だった。この経験を通じて、日本の自然保護管理についてさらに理解を深め、今後のキャリアに活かしていきたい。

日 程：2023/7/31(月)–8/7(月)
参加学生：7名
活動場所：中国・海南島
備 考：海南大学林学院：<https://bkzs.hainanu.edu.cn/zyjslink/lxyl.htm>
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林：
<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>



海南大学の皆さんと一緒に



植物園で説明を受けて学ぶ様子

B18. インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動 日本語教育のサポートと企業訪問をとおして

活動は、インド人学生との交流、インドで働く日本人との交流、観光の3つに分けられる。インド人学生との文化交流では、日本の踊りや浴衣を紹介し、熱心に日本語を学ぶ学生たちの姿に刺激を受けた。また、JICAや日本大使館を訪れ、インドの多様性を実感した。街や農村を訪れる中で、インドの奥深さと成長を感じ、文化や食事、建築など新鮮な体験を通じて多くの学びを得ることができた。

日 程：2024/2/26(月)–3/5(火)
参加学生：8名
活動場所：インド工科大学カンプール校（IITK）、
バナーラス・ヒンドゥー大学（BHU）
備 考：工学系研究科日本語教育部門：<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
東京大学インド事務所：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/utindia/ja/index.html>
インド赤門会：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/utindia/ja/akamonkai.html>
インド工科大学カンプール校：<https://www.iitk.ac.in/>



キャンパスの様子

【研究室プログラム】

C1. 「医の知」に触れる—手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！

手術を見学し、患者さんの体内を観察する貴重な体験を得た。臓器の質感や動きを目の当たりにし、医師から手術や疾患について学ぶ機会があった。手術台近くでの医師同士の会話や説明を通じて、研究における連携の重要性を再認識した。教科書や模型では得られないリアルな体験があり、非常に充実した時間となった。



見学へ

日 程：2023/8/1(火)–8/3(木)
参加学生：3名
活動場所：東京大学医学部附属病院
備 考：東京大学医学部附属病院胃食道外科：gibes.m.u-tokyo.ac.jp/

C2. 先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体

活動は2週間にわたり、初めの1週は研究室のプロジェクト見学、次の週はその中の1つを選び研究活動を体験した。神経細胞の観察がテーマで、カルシウムイオンやシナプスタンパク質の蛍光標識を使って実物を見ることで理解が深まった。観察には工学や物理学、化学、数学などの広範な知識が必要で、科目の境界を感じた。今回の経験を通じて、幅広い知識の重要性と研究者生活への理解が深まった。

日 程：2023/8/14(月)–8/25(金)
参加学生：4名
活動場所：医学部教育研究棟
備 考：医学系研究科機能生物学専攻細胞分子薬理学分野：<http://www.pharmacol.m.u-tokyo.ac.jp>

C3. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

野崎先生の研究室でのゲーム解析や、森田先生のラボミーティング、多賀先生のNIRS測定を通じて、多くのことを学んだ。特に、MATLABを用いたデータ解析は非常に興味深く、自身が参加した実験データを解析することで深い理解が得られた。また、ラボミーティングでは将来の研究生活への具体的なイメージを持つことができた。この経験を活かし、データ解析に対する意欲が高まり、新たな疑問や仮説を探求していきたいと思った。

日 程：2023/8/1(火)–2024/3/29(金)
参加学生：8名
活動場所：東京大学大学院教育学研究科・身体教育学コース各研究室
備 考：大学院教育学研究科 身体教育学コース：<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

C5. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

有機合成の実験では、超臨界水を用いた二段階反応と高温高压装置下でのピナコール転移反応を行い、滞留時間などの変数を変えて水の役割を考察した。実験の下準備から実際の実験、エクセルを用いた数値計算や反応率の算出によるデータ分析も担当した。修士レベルの化学実験を体感し、実験スキルへの不安を払拭できた。研究活動を体験し、背景知識の重要性を実感した。座学のモチベーションが高まり、超臨界水のテーマも将来の選択肢として考えるようになった。現場目線を獲得できたことも、今後に活かしたいと考えている。



実験の様子

日 程：2023/9/4(月)–9/7(木)

参加学生：3名

活動場所：柏キャンパス 新領域環境棟

備 考：大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 大島・秋月研究室：

<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>

C6. みんなで翻刻ソン

「みんなで翻刻」Webアプリ（一般の人々がAIの支援を受けながら史料の翻刻を行うシステム）を使用し、くずし字と解読に関する講義を受けた。古文書の内容がさまざまな事例に活用できることを学び、AIを用いた文字解読を初めて体験したことで、くずし字が身近に感じられるようになった。AIが完全に解読を行うのではなく、人間の判断が重要であることも理解した。また、解読作業が一般公開されていることを多くの人々に知ってほしいと感じた。この経験を通じて、翻刻作業を趣味として続けたいと考えている。



作業中の様子

日 程：2023/9/13(水)–9/15(金)、9/27(水)、9/29(金)

参加学生：3名

活動場所：東京大学地震研究所

備 考：みんなで翻刻：<https://honkoku.org/>



解読作業に取り組む

C7. DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2023

DO-ITプログラムのチューター・アテンダントとして参加し、障害のある奨学生（スカラー）との交流を通じて多くの学びを得た。初日はガイダンスに参加し、ウェルカムパーティーの準備を行った。徐々に雰囲気慣れ、2日目には特別聴講生プログラムに参加。子どもたちとの関わりを深める中で、障害者への偏見を減らす重要性を実感した。さらに、車椅子の扱いや合理的配慮について理解を深め、社会の中の「障害」に気づくきっかけとなった。最終日はスカラーたちの成果を共有する場に感動した。この経験を活かして、今後も障害のある人々との関わりを大切にしていきたい。

日 程：2023/8/6(日)–8/10(木)

参加学生：2名

活動場所：東京大学 先端科学技術研究センター

備 考：DO-IT Japan：<http://doit-japan.org/>

C8. システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン

海運業界のカーボンニュートラル達成に向け、日本提案のFeebateルールを用いたシミュレーションをPythonで実施した。初めての挑戦だったが、技術的な困難に直面しながらも現実の挙動に関するヒントを得た。完璧なシミュレーションでなくても重要な洞察が得られることに気づき、カーボンニュートラルへの関心と知識が深まった。この経験を通じて、本格的なコーディングの楽しさを実感し、今後も学びを続けたい。また、社会問題を数理モデルで表現することで環境問題への理解と意識が高まった。これらの知識を活かし、地球を守るために積極的に取り組んでいきたい。



研究室にて

日 程：2023/7/28(金)-8/9(水)

参加学生：3名

活動場所：柏キャンパス環境棟

備 考：知的システムデザイン分野（稗方和夫研究室）：<https://is.edu.k.u-tokyo.ac.jp/>

C9. いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう

春に田無演習林で4日間活動した。1日目は演習林の概要と樹木の種類を学び、2日目は調査区の設定、測量、樹高の計測を体験した。3日目は都市林の講義を受け、伐倒や高所作業、薪割りを行った。4日目にはナラ枯れについて学び、被害樹の観察とキクイムシの穴の数を調べた。特に調査区設定時の精密な測量が印象的で、わずかなズレが大きな誤差につながることを学んだ。また、手を加えない長期観察プロットや苗畑の重要性を理解し、都市林の維持には地域住民の理解が不可欠であることを実感した。この経験を通じて、理論と実践の重要性を学び、今後も研究に貢献できるよう努めていきたい。

日 程：①2023/9/19(火)-20(水)または9/28(木)-29(金)

②2024/2/27(火)-28(水)または2/29(木)-3/1(金)

①と②の合計で4日間

参加学生：8名

活動場所：附属演習林田無演習林（西東京市）

備 考：田無演習林：<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/>

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2024年3月8日（金）、東京大学本郷キャンパスの鉄門記念講堂にて、体験活動プログラム報告会を開催した。昨年度に引き続き、対面形式とZoomウェビナーを併用し、プログラムに参加した学生、受入関係者、及び本学教職員等約250名が参加した。

学生スタッフ2名の進行で開会し、まず藤井輝夫総長が挨拶を行った。藤井総長は、体験活動プログラムは2012年から12年間も続いている「学びと社会を結び直す」ことを体現した重要なプログラムであると位置づけ、学生がキャンパス外での様々な体験を積むことで、その経験が次の学びへと繋がる貴重な機会であり、この活動を通じて東京大学全体のコミュニティが拡大することを期待していると述べた。また、多くの学生に貴重な経験を提供して下さった受入関係者への謝辞も述べられた。報告会では、学生たちが経験した体験活動の成果や学びが発表され、体験活動の意義を一層深く理解する機会となった。



司会担当の学生スタッフ



藤井総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」の授与が行なわれ、今年度は島田療育センターはちおうじ様、東大北京校友会様、東京大学中国校友会様、北海道鷹栖町様が受賞された。



特別功労賞授与の様子



特別功労賞授与の様子

続いて、5つのプログラム（「気候変動に対応するために個人でできるGXを考えてみよう～日本マイクロソフト株式会社～」、「インドに向けて東大・日本の魅力を発信—日本留学推進活動サポートと学生交流」、「駒場IIキャンパス学食を通じた生産者への聞き取り・発信ワークショップ」、「システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン」、「中国・海南島の自然保護区管理を知る」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に生かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、協力いただいた関係者から学生受入れに関する感想やメッセージをいただいた。



「気候変動に対応するために個人でできるGXを考えてみよう～日本マイクロソフト株式会社～」発表学生



「インドに向けて東大・日本の魅力を発信—日本留学推進活動サポートと学生交流」発表学生



「駒場IIキャンパス学食を通じた生産者への聞き取り・発信ワークショップ」発表学生



「システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン」発表学生



「中国・海南島の自然保護区管理を知る」発表学生



日本マイクロソフト株式会社
石山 将 様



人文社会系研究科 加藤 隆宏 准教授



株式会社テーブルビート
玉田 泉 様



農学生命科学研究科附属演習林
石橋 整司 教授

最後に、津田敦理事・副学長より受入関係者への謝辞が述べられ、報告会は閉会した。今年度の報告会では、7名のプログラム参加学生が司会、受付、写真撮影を担当し、報告会の運営に携わったことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



津田敦理事・副学長の挨拶



発表学生・運営に携わった学生スタッフ

2023年度体験活動プログラム報告会

日時：2024年3月8日（金）

14：00～16：00

場所：鉄門記念講堂（本郷キャンパス）

Online（Zoom）

式次第

一．開　　会

一．総長挨拶

【藤井 輝夫 総長】

一．特別功労賞授与

一．活動報告（5プログラム）

●気候変動に対応するために個人でできるGXを考えてみよう

～日本マイクロソフト株式会社～

●インドに向けて東大・日本の魅力を発信—日本留学推進活動サポートと学生交流

●駒場IIキャンパス学食を通じた生産者への聞き取り・発信ワークショップ

●システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン

●中国・海南島の自然保護区管理を知る

一．理事挨拶

【津田 敦 理事・副学長】

一．閉　　会

《司会》 教養学部前期課程文科一類 1年

工学系研究科社会基盤学専攻修士1年

Hands-on Activities 2023 Debriefing Meeting

Date: Friday, March 8, 2024

Time: 14:00 - 16:00

Place: The Iron Gate Memorial Hall
(Hongo Campus) and Online (Zoom)

Opening

Message from the President

[FUJII Teruo, President]

UTokyo Award for Outstanding Contributions to the Hands-on Activities 2023

Presentations

- Let's Consider "IT-based GX" for Addressing Climate Change
- Promoting Japan's Charm to India: Supporting Academic Exchange Activities Between Japan and India and Facilitating Student Exchange
- Workshop on Interviews with Producers and Communication Through The Cafeteria at Komaba II Campus
- System Design Workshop: Designing a Carbon Neutral International Shipping System
- Learning about Nature Reserve Management in Hainan Island, China

Message from the Vice President

[TSUDA Atsushi, Vice President]

Close



体験活動プログラム

Hands-on Activities



非公認キャラクター
もりかいも

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生及び大学院学生が、これまでの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。本学独自のプログラムとして、2012年度から実施しています。

学びと社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通して信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることができます。

フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、多岐にわたっています。



卒業生訪問（アメリカ）



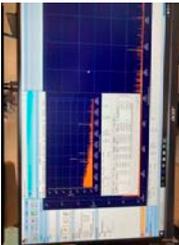
ボランティアなどの社会貢献活動（滋賀県）



フィールドワーク（北海道）



就労体験（東京都）

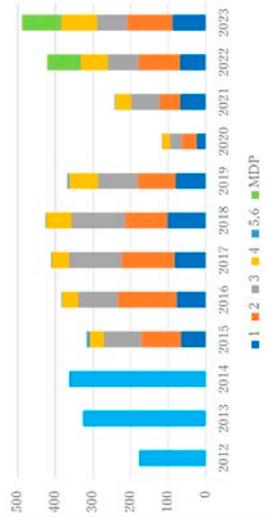


研究室体験（本郷キャンパス）



フィールドワーク（南伊豆）

2012～2023参加者数推移



2022年度より、一部企画の参加申請資格を「学部学生のみ」→「学部学生・大学院学生」に拡充し、より幅広い学生が参加できるようになりました。

<2023年度・プログラム一覧>

海外プログラム

（全18プログラムより一部抜粋）

- ・グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方
- ・アラブ首長国連邦の「いま」
- ・シンガポールでビジネスを学んでみよう
- ・英国ロンドン、海外で働くとは
- ・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！

国内プログラム（全54プログラムより一部抜粋）

- ・笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学
- ・JICAの国内の現場で国際協力を知る
- ・山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう
- ・帰還困難区域の「街づくり」を考える。
- ・日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える

研究室プログラム（全8プログラムより一部抜粋）

- ・みんなで劇刻ソン
- ・先端的電光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験

参加学生の感想

- ・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！
ベトナムの持つバイタリティを実際に目にすることができたのは大きな収穫だった。学部・学年バラバラの参加者との交流も非常に刺激的で、参加体験は、社会人になっても活き続ける、自身の重要な軸の一つであると考える。
- ・笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学「選オワークショップ」
観客を自分たちの世界観に引き込むには、観客との対話が必要で、そこが1つ難しいポイントだと感じた。観客との対話も、選オだけでなく普段の発表やプレゼンテーションの場でぜひ生かしていきたいと感じた。



参加学生が活動を発表する報告会は、参加学生有志が司会やスタッフを務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム

taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.htm>





Hands-on Activities

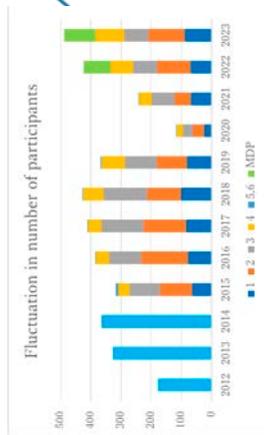


非公式キャラクター
もりかも

What is "Hands-on Activities"?

The "Hands on Activities" is an experiential education program that allows undergraduate and graduate students of the University of Tokyo experience cultures and values different from those experienced in their lives to date. This program is unique to the University and has been implemented as a non-credit activities since FY2012.

This program, which reconnects learning and society, is one practical form of the "building trust through dialogue based on empathic understanding" that the university aims to achieve. Through a variety of experiences, students will meet diverse people and acquire the ability to advance the quest for knowledge by seeking to know the unknown. The field can be domestic or international, and the content diverse, including voluntary work and other social contribution activities, international exchanges, agriculture, forestry, fishery, local community experiences, and on-campus laboratory experiences.



From the 2022 academic year, some of the projects had their application eligibility changed so as to expand from [Undergraduate students only → undergraduate students and graduate students].
We are pleased to announce that we are now able to accept a wider range of students to participate in our events.

Selection of programs from AY2023

Selection of the 18 Overseas Programs

- How to live and develop your career in the global city of New York
- The United Arab Emirates: Now
- Learn about business in Singapore.
- London, England. What it's like to work abroad
- If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

Selection of the 9 Lab-based Programs

- Flip-a-thon with everyone
- Brain Science and Neuroscience Research Experience Using Advanced Fluorescence Imaging Technology

Selection of the 53 domestic Programs

- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- Learn about international cooperation at JICA's domestic sites
- Experience caring for goats, pigs, cows, and horses as well as riding the horses!
- Considering "town development" in difficult-to-return zones.
- Learn and think about fireworks, a traditional Japanese culture

Hands-on Activities



Visiting UTokyo Alumni (USA)



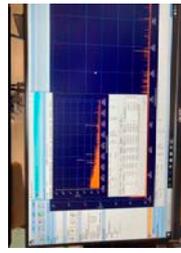
Volunteer experience (Shiga, Japan)



Field work experience (Hokkaido, Japan)



Work experience (Tokyo, Japan)



Laboratory program (Hongo Campus)



Field work experience (Minami-Izu, Japan)

Participants' reports

• If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

It was a great experience that I could actually see the vitality of Vietnam. The exchange with participants from different faculties and grades was also very stimulating, and I believe that this experience will be one of the important pillars of my own life, which will continue to be useful even after I enter the workforce.

• Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program

I felt that dialogue with the audience is necessary to draw them into our worldview, which is one of the most difficult points. I would like to make use of this dialogue with the audience not only in my comic performances, but also in my daily presentations and presentations.



The debriefing sessions where participants give presentations are run by the students themselves



Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542



<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



2023年度 体験活動プログラム活動報告

作成	2024年12月
編集	東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html